

「月刊」

キャッチ ピース

25

通巻104号/1994.10

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業をすすめよう！



多くの県民が長官発言に抗議行動を起こした 那覇防衛施設局前にて
—毎日新聞より転載—

全文掲載 (本文四七ページ)
宝珠山防衛施設庁長官の発言
「沖縄は基地と共生、共存する方向に変化してほしい」

軍事予算の削減を求める
村山首相へのハガキキャンペーン

「沖縄から」

基地返還のチャンスに！

—アンテナ撤去つづく上瀬谷通信基地—

やりました！国連加盟国へのNPTアンケート

★維持会員 (月間)	★参加会員 (月間)	★通信会員	脱軍備ネットワーク
個人 1口 1000円	個人 1口 500円	年間	
団体 1口 2000円	団体 1口 1000円	3000円	キャッチピース

<会費は本紙購読料をふくみます>

あなたも会員・読者に！

連絡事務所 ● 〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
TEL 045(563)5101
FAX 045(563)9907
郵便振替 ● 東京6-136148 口座名「キャッチピース」

日本の「軍縮」を実現しよう

はじめの一步!

「軍事予算の削減」

山中悦子 (編集部)

村山首相に
軍縮!の声を届けよう

今年からは京都から始まりました

村山首相へのハガキキャンペーン「95年度軍事費削減」を求めて

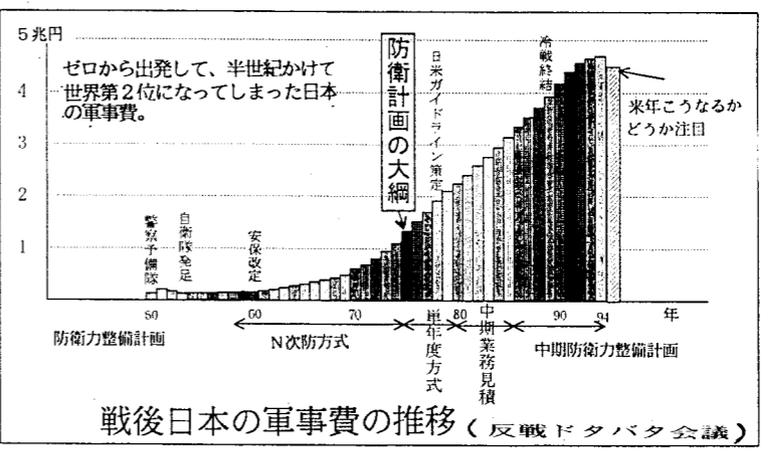
読者の皆さんには、もしお手元にありませんでしたら「キャッチピース一七号(九四年一月発行)」をお開きあれ。この号には、キャッチピースが実施した「軍縮に関する国会議員アンケート結果」が掲載されています。アンケート実施時期は九三年末。当時の首相は細川サン。社会党は与党第一党でした。

Qは四ツ。①九四年度の防衛予算は妥当だと考えるか、②AWACS(早期警戒管制機)の導入は必要か、③防衛費の削減は何かから始めるか、④防衛費の削減以外に「軍縮」を実現する方法は?

この時寄せられた村山富市氏(衆・社)の回答は次の通りでした。
①妥当でない、②不必要、③ポスト冷戦に相応しい自衛隊の規模、装備、態勢への再編と日米安保体制の見直し、④核軍縮や大量破壊兵器の拡散防止、地域の信頼醸成や紛争予防外交、平和外交など、地球的、地域的な軍縮、軍備管理と集団的な安全保障システムの確立。

この他二五名の社会党議員から寄せられた回答も大方向じよなもの。AWACSの導入は不必要であり、従ってAWACSの購入を前提とした防衛予算案は妥当でなく、軍事費削減のためには安保体制の見直しが必要であり、自衛隊も縮小すべき。平和憲法を世界に広め、近隣諸国との信頼関係の構築により軍縮を実現するべきとありました。

皮肉にも、社会党々首の村山サンが首相になって最初に手掛けた仕事は、「AWACSの購入費を含んだ予算の成立」でした。村山サンと村山首相はどうやら別人だったようです。



戦後半世紀の今、

流れを変えよう!

九五年度の予算編成が始まった。今年には京都の「反戦ドタバタ会議」がこの予算編成に向けモノ申す動きを始めた。「軍事費削減・ハガキキャンペーン」の展開。村山首相宛てに「軍事費の削減を求めます」と穏やかに、けれどはっきりと国民が意思表示をするハガキを用意した。

日本の軍縮を実現する具体的手立ての一つは「軍事費の削減」である。もちろんこれは十分条件ではなく、必要条件のひとつに過ぎない。しかし、この必要条件のひとつは様々な観点から考えてきわめて大きな意味を持つものである。

戦後五十年。ゼロからスタートした日本の軍事費はいつのまにか世界で二番目となった。その額九四年度当初予算で約四兆六千八百億円。それを来年度は〇・九%増額したいというのが防衛庁の意向である。そもそも自衛隊発足以来四十年、軍事費はただの一度として削減されたことがない。「軍拡一筋国家」の日本。東西冷戦終結後の世界の先進国は、確実に軍縮への道を歩み始めている。何事にも西欧を真似ることが好きな日本が、このトレンドリーな「軍縮」の流れに乗らないのはなぜだろうか。

軍事費削減の効用

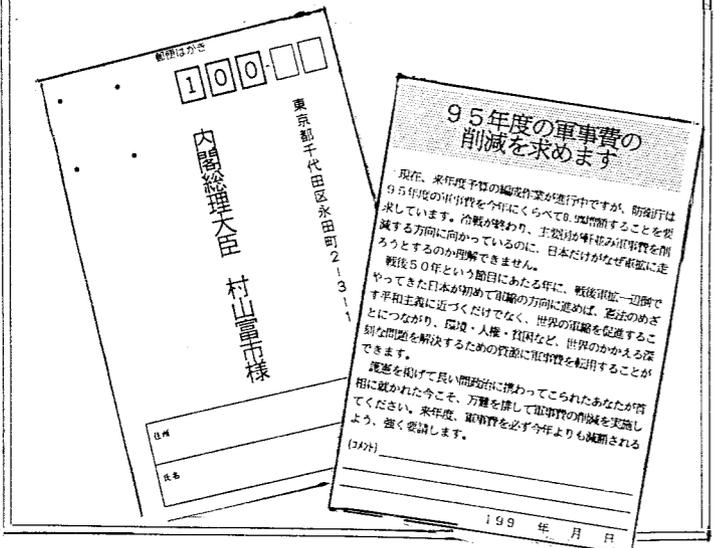
(反戦ドタバタ会議) 青木雅彦

- ①目に見える方向転換
「軍縮」が客観的に数字で見える。
- ②国民に納税者意識を自覚させる
- ③日本の防衛政策の矛盾を噴出させる
- ④軍事費削減によるお金の有効活用
- ⑤「おもいやり予算」が出せなくなると米軍基地がなくなる
- ⑥ポジティブな政治参加の実現：新規正面装備を不可能にする

軍事費は破壊のための準備金に他ならない。これほど馬鹿らしい支出が他にあるだろうか。今地球上には飢餓状態にある人々が十億人以上。住む家や着るものがない人々が十億人以上。以上、住む家や着るものがない人々は数えきれない程という現実がある。軍事支出の削減分を「平和の配当」として活用することで飢餓、貧困、病氣、紛争などで苦しむ人々の数は大幅に減少する。日本も「国際貢献」を叫ぶのなら、武力による紛争の防止や解決をめざすのではなく、人間的必要性の保障(前号

参照)を実現する、持続可能な開発、人中心の社会発展のために知恵もお金も出すべきなのだ。
それにしても、例のAWACS二機分の代金一、一〇二億円はローンだから今年も来年も来々年もずーっと払い続けるのだ。ムッ。とにかくみんなでハガキを出そう。村山首相に「村山サン」だった頃を思い出していただき軍縮に本気で取り組んでいただく。

—ハガキの注文・お問い合わせ—
反戦ドタバタ会議
〒606 京都市左京区吉田牛ノ宮町21
京大YMCA館内
Tel&Fax: 075-752-1426
1枚20円(10枚以上2割引き)送料別



「沖縄は基地と共生、共存する方向に変化してほしい」



沖縄基地をめぐる宝珠山防衛施設庁長官のこの発言の全文をこの度入手しました。ここに“一挙掲載”します。経過はP8～9「沖縄から」を御覧ください。(編集部)

軍転特措法の基地の廃止を前提にした表現は 基地提供義務との関係で整合性がない

とをいかに大きな旗を掲げても進まないのではないかと、という感じを今回も改めて強く致しました。

Q◎那覇軍港の返還など重点三事案の進捗についてうかがう。

A●港湾施設の問題については、適当な代替地がないか、米軍の運用上の要求を充たすというのが、どのあたりかというところで専門家の間で詰めているが、地元との調整に入るほどの進捗にはなっていない。

第二の問題は読谷補助飛行場についてだが、これは三つの事案の中では比較的具体化が進んでいると言える。「特別作業班」という専門家のチームをつくり、日米間で検討が進んでいる。どこかというのはまだ、公にできる状況でない。

県道越え実弾射撃の問題については、ご承知のようにパイパスとなる道路の整備が進んでいるというところがあるし、それから射撃のいくつかの砲座について使わないという工夫がなされている。それから、運用上にあたっては地元にも与える騒音を緩和する努力をしていると聞いている。

実弾射撃を廃止しろということについては、防衛施設庁は運用上のことについて口出しできないこと。日米安保条約を有効に機能させていくという視点から、この廃止を米軍に求めることはできない。どこかほかのところというところは考えられるが、日本全体で自衛隊の基地というか、演習場も不足している状況であり、いずれも返還なりをしよう、影響を軽減する努力をしようということと比較的進んでいるところではあるが、いまずにこれが回答だという状況ではない。

Q◎P3C基地について。知事が反対し、本部町長も反対の町長に変わったが…。

A●地元の用地については九六%の用地を取得している。平成三年六月には町議会が建設容認を表明している。今、残されているのは、この用地の中に、建設省所管の行政財産の里道の三ヶ所に通信用のケーブルを埋設する必要がある。この使用許可の権限が県知事に委任されている。そのため、今年の三月に県知事に使用許可を申請している。まもなく六ヶ月が過ぎようとしている。行政機関として、この業務に要する時間としては長すぎると思う。いろいろな意見があると思うが、基地撤去、日米安保反対だ、自衛隊反対だという政治的立場を置き、行政の立場に立つならば、本部町と共生、共存できる施設だと思っている。引き続き理解を求めていきたいし、理解をいただけるものと思っている。

Q◎軍転特措法についてどのように対応するか。

A●議員立法ですので、どういう考え方をしているのか、必ずしもきちっと法律的にあるいはデータをもとに説明できる場所が必ずしも明らかでない。そういうことで、極めて詰めた形での意見が申し上げにくいのを理解してほしいが、確か三条であったかと思うが、基地を撤去するか、廃止を前提にした表現があります。これはわが国が国として追っている基地提供義務との関係で、整合性を失うことはないのかの点が論議されるべきであらうと思う。それから、私どもは借料を一定額払っているわけだが、それを返還した後、借りていた時の金額を基に、三年を限度に支払えというが、法律的に借りていない土地に借料を

Q◎長官就任後初の沖縄基地視察の感想を。

A●沖縄に来る度に施設の整理統合が遅れているとか、進まないということを経験してきたが、間かされてきた。防衛施設の安定的使用、そのための地元との調和を求めるといふ仕事になり(沖縄に来るのは)初めてだが、進まない理由というのが大変難しい多くのことにかかわっているという感じをもっている。

そのことについて若干申し上げると、防衛施設庁の中でも沖縄の基地問題というか、防衛施設の問題は非常に大きなウエートを占めている。着任してからペーパーの上ではいろいろと説明を受けているが、やはり現地に施設を管理する立場から見ることが大事だということでも参りました。抱えている問題が非常に多いわけですが、那覇防衛施設局を中心に長いこと何代もの局長が解決に努力をしているし、米軍も情勢の変化はあるが、理解をして協力をする姿勢が明らかです。

そういう中で、なぜ(整理統合が)なかなか進まないかと尋ねざるをえない。いろいろお話を聞きながら、私なりに分析して得た結論というのは、やはり入り口で議論が留まってしまふこと。これは別の言葉でいうと、五五体制といわれている日米安保反対、基地撤去、要するにゼロにしろということがあり、その運動とのかかわりでは、私どもの仕事は対極にありまして、基地を確保して、地元の了解というか、地元との調和を得ながら確保していくのが日米安保、あるいは防衛施設法で科された職務である。これとの関係では建設的話し合いのテーブルにつけないということですから、これを何とかしなければ、整理統合というこ

—県知事としての立場で、…「基地撤去だ」という
話し合いの余地のない世界から出て頂いて—

私えというのは、どういう論理か、こういう仕事をしてい
る以上、お尋ねせざるを得ない。
実務的な話だが、計画をきちっとつくりなさいという義
務を科しているようだが、借用している土地の実態は千差
万別であり、これを返還計画がきちっとできなければ進ま
ないよと義務づける時に実際面で返還がスムーズにいくの
だろうか。むしろ、私どもの経験を踏まえると、個別にそ
れぞれの土地、形状もあるだろうし、返還後の使用形態も
踏まえ、個別具体的にやっていくほうがスムーズではなか
らうか、という意見をいずれ述べる機会があるのかなと思
っている。

Q◎事業の解決のしかたで、どこに移設するか、どこがど
ういうプロセスでコンセンサスづくりをすべきかというこ
とで県と見解の相違があったと思うが。

A●三事業に限らずお聞き願いたいのが、沖縄以外で逗子市
に米軍家族住宅を建設するということで、ここ十数年来、
いろいろ経緯があった。これを大きく促進する事になった
のは七年前です。これは長州知事が国と逗子市の調停をす
るということで促進した例がある。この場合はまさしく国
と市ということで、直接であったが、そこから移転しよう
とする複数の市になると思う。沖縄県をトータルとして、
土地であれ、経済の繁栄であれ、全体の立場で考えられる
県知事が私どもとの移転先を中心とした話し合いを相互の
意見をよくお聞きいただいた上で、調停頂くのが非常にス
ムーズではないか。

県も市も、出ていけ、ゼロにしろということではなり立
たない話し合いの世界であります。沖縄から出ていけとい

うことを政治姿勢として主張することを私どもがとやかく
いうことではない。しかし、日本は法治国家ですから、条
約によって外国と約束する、法律で国民に対して約束をし
ている。その観点からすると、沖縄県を所管する行政府の
長たる県知事として、政治的立場を置いて、調停を頂くこ
うのはあってしかるべきと思う。基地反対を選挙で掲げ
るなどというつもりはない。

冷戦終結で、世界も変わりつつある。国内も半世紀近く、
日米安保反対だ、自衛隊違憲だと言ってきた党が「日米安
保堅持」「合憲だ」と百八十度の転換をほぼ遂げたと私ど
もは感じている。

私はこの変化を対立の側面から話し合いによって、お互
いに譲り合うことにより、物事を解決していこうという現
実的な変化と受け止めている。

昨日、県知事にお願したのも政治的立場はともかくと
して、県知事としての立場で「日米安保反対だ」「自衛隊
違憲だ」「基地撤去だ」という話し合いの余地のない世界
から出て頂いて、建設的な話し合いのテーブルについてほ
しいということだ。

沖縄は世界戦略というところとちょっと言い過ぎかもしれない
が、アジアの世界の中で戦略的に極めて重要な位置にある
ことは歴史が証明していることだと思ふ。戦略上の要地に
はどうしても防衛施設、軍事施設というものは欠かせない。
これは好むと好まざるにかかわらず、国家の要請として
存在すると私は思っている。

この変えることのできない条件を踏まえて逆に言うこと
基地を提供するという非常に優れた位置にあるということ

—基地を受け入れることによって
基地と共生、共存する方向に変化してほしい—

でもあるので、これをプラスに転じ、基地を受け入れるこ
とによって基地と共生、共存する方向に変化してほしい。

そういうことであれば、私ども、あるいは米軍を含めて、
建設的な話し合いのテーブルに十分つける。非常に（整理
統合が）遅れていると言つて、ご避難を受けますけれども、
（国家としての要請を受け入れれば、整理統合は）大幅に
スピードを上げられると私は思っている。

大きな事業について、個々の市がおれのところにきても
らうては困るよ、日米安保反対、基地撤去と、これは知事
以下の方針だということ、大きな問題はなかなか進まない。

私どもは基地を整理統合することについて、何ら反対する
ことはない。日米安保に基づく施設提供の中で、基地の借
料とか、補償経費とか、周辺対策費とか、労務経費とか、
近年の防衛予算の中で伸びているのはこの関係です。伸び
ているのは在日米軍駐留経費の増大が大きいのです。その
経費を除いた防衛費となると傾向的に低下している。それ
を象徴しているのが、正面経費の減少です。一時期、二五
%近くまで防衛経費のウェイトを占め高めていた正面経費
は今は一五、一六%という惨めな姿になっている。そうい
う状況を背景にすると、私どもはなるべくたくさん返した
い。借料とかを軽減することは、防衛庁長官の利益に合致
することである。ただ、運用上の要求を充たすことが条件
ですから、廃止ありきではない。

必要なものを安定的に使用するというのが大前提である。
そういうことで、合理化する、より小さく、合理的に使用
することは私どもと利害は一致していますので、立場の違い
があっても、そのことを持って返還をやめるといふこと

を言っているつもりはない。

Q◎一〇四号代替地を探すことは難しいよということか。

A●現実にはそれをどこかにもっていかけるかということ、三事
案の中で最も難しいと思つている。本庁なり、現場に来て、
いろいろお聞きした限りでは大変難しいと言わざるを得な
い。

Q◎当面は運用面での改善するかということか。

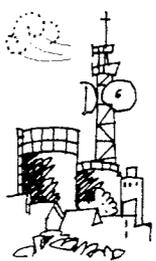
A●かねてから、米軍には安全管理はもちろん、地元への
影響を軽減するように、運用上許される限りの配慮を申し
上げて来た。今回も申し上げた。

Q◎パラシュート訓練の移設先として、キャンプハンセン
内の中部訓練場が取り沙汰されているようだが…

A●運用者と施設を管理している我々で、極めて具体的な
話をしている。どこかに新設でないとすれば、自ずからそ
う遠くない所が検討の対象になると一般論として言える。

Q◎軍転法にいくつか、考え方を示されたが、要するに法
案の本身は非現実的ということか。

A●議員立法であり、意見を求められれば、そういうこと
を申し上げることにはなるのではないか、ということをお願い
したい。



沖縄から

沖縄がかわれば、アジア・太平洋がかわる

報告③

「沖縄から」
オキナワボイス

編集委員

伊波洋一

(沖縄中部地区労働局長)

〒901-22

沖縄県宜野湾市志真517-1

沖縄キリスト教平和センター-気付け

TEL (098) 898-6628

FAX (098) 897-6963

郵便振替 鹿児島 2-11249

的考えを変えず、現在でも日米安保の根幹を米国の核抑止力としている。

沖縄の米軍基地での核疑惑

沖縄は戦後、米軍核戦略の重要拠点とされ、伊江島では模擬核爆弾投下訓練が日常的に行なわれ、陸上配備核ミサイル・メースBも沖縄返還まで配備されていた。台風避難の理由でグワムから飛来するB52戦略爆撃機には核兵器が搭載されていたと思われる。今回、日米安保の根幹が核兵器であることが明らかになったわけだが、安保条約が非核三原則を破ってきた証拠は数多い。

米軍関係者は米艦船や米軍機による日本への核持ち込み、六十年代の岩国基地のLSTへの核兵器配備等を証言し、空母タイコンデロガの水爆搭載機水没事故が情報公開記録で明らかにされた。

そして、常に核疑惑を指摘されているのが在沖米軍基地である。米軍の核部隊は弾薬庫以外にも普天間基地や海兵隊基地に九〇年代まで存在し、特に辺野古弾薬庫の幾つかの弾薬庫は何度も核施設と指摘されてきた。

核疑惑を裏付ける事実が判明

今年五月にそれを裏付ける二つの事実が明らかになった。一つは、沖縄返還時に当時の佐藤首相とニクソン米大統領の間で締結された核密約合意議事録の存在である。キッシンジャーによる修正の手が入った草案では、日本政府は核兵器の沖縄への再持ち込みと沖縄を通過する権利を米国に認め、米国が沖縄に核兵器貯蔵基地をいつでも使用できる状態に維持することが約束された。

もう一つは、米軍施設の辺野古弾薬庫の設計図が関係者によって明らかにされた。報道によると設計委託者が国防核支援局であることや、核物質漏れを防ぐディコンタミネーション(核除去)室や緊急シャワー等の備え付けられた組み立て室も存在している。これらの施設が九二年の改修工事でも維持されたとの関係者の証言もある。

核兵器施設の撤去運動が必要

日米核密約が明らかになった今年五月、名護市と嘉手納町の議会は核関連施設の撤去を決議した。しかし、これまでの核疑惑のよう

に闇に葬りさらされる可能性が大きい。沖縄の反基地平和運動にとって、これらの事実を検証しながら核疑惑のある軍事施設を撤去させる取り組みが求められている。

今月のトピックス

宝珠山防衛施設庁長官発言の波紋

宝珠山防衛施設庁長官が沖縄県内の軍事基地視察後の九月九日、那覇市での記者会見で沖縄県民に軍事基地との共生と共存を求める発言をしたことが大きな反響を呼び、沖縄県内の各自治体首長や議会、政党、各種団体だけでなく、県民各層から抗議を受けた。

沖縄県や県議会など県内各層の抗議にもかかわらず、宝珠山長官は発言撤回を拒否し続け、上原康助衆院議員の抗議にも「防衛施設庁の職務に忠実に発言したこと。間違ったこととは言っていない」と反論した。

宝珠山発言は、軍事基地の重圧を日常的に感じている県民に永久に基地を維持しようとする日本政府の姿勢を認識させ、逆に軍事基地から脱却しようとする沖縄県民の意志を結束させることになった。

多くの県民が、新聞紙面に掲載される県内市町村長や県会議員、有識者などの長官発言に対するコメントや県議会や市町村議会の抗議決議等を通して、『軍事基地との共生・共

存はゴメンダ』との共通認識を持った。

県内各紙が宝珠山発言を批判する社説を三、四回も掲載したことは、この発言が県民感情をどれほど害したかを示している。

政府の対応も二転三転

日本政府の対応は鈍く、玉沢防衛庁長官の意を受けた防衛庁の畠山事務次官が九月十三日に陳謝したが、当の宝珠山長官は発言の撤回も謝罪もしなかつたため発言撤回、謝罪と合わせて長官の更迭を求める声が県内で急速に高まっていった。

そのため二十日に玉沢防衛庁長官が宝珠山長官を直接注意して五十嵐官房長官も決着済みとの認識を示した。

しかし、不透明な決着に県内の反響は大きくなり、社会党沖縄県本部は社会党本部との関係凍結を二十二日決定した。二十八日には社会党九州ブロックも村山首相と党本部に長官の即時退任を要求した。

二十八日、政府は「共生」の取り消しで収拾を図ろうとしたが、各方面から批判を受け、三十日に宝珠山長官が「『共生、共存』を取り消したい」と定例記者会見で表明。

しかし、今度は山崎元防衛庁長官が「発言撤回は日米安保体制の堅持と矛盾が生ずる」

と懸念を表明し、自社連立政権内で再協議されることになった。

退任要求県民大会と首相陳謝

そして、十月四日には「共生・共存」発言に抗議し宝珠山長官の即時退任を求める県民総決起大会が那覇市で開催され、労働組合員を中心に約二千五百人が参加して長官退任を求めるデモが行なわれた。

翌十月五日に衆院代表質問で自社連立政権与党を代表した上原康助衆院議員(社会党副委員長)が宝珠山発言を追求し、村山首相が「県民に迷惑をかけ遺憾」と陳謝した。玉沢防衛庁長官は「共生、共存」を含め、社会党や県行政、軍転特措法への不適切な発言の撤回を表明した。

当の宝珠山長官は同日の記者会見で多くの不適切な発言を撤回し、沖縄の基地の現状認識についての質問にも「沖縄県の米軍専用施設が多くが、住民の意志に反して取得建設されたものであり、県の振興開発、県民生活などに与える影響、制約というものは極めて大きいと認識している」と答えた。

沖縄基地問題が日本政府中枢で論議され、基地問題への認識が深まったことは、沖縄県民の運動の勝利といえよう。

通報は2週間後

「無視」された住民

そもそも事件は

●平和資料協同組合は十月七日、立川で記者会見を行った。記者会見には代表の梅林さんと、横田基地の地元、福生市議の遠藤が参加した。

●昨年十月横田基地で発生したジェット燃料漏れ事故に関して、米国の情報公開法によって得られた事故の報告書の分析結果についての記者会見だ。公開された調査報告書、分析結果、軍内部通信、会議録などから昨年の横田基地で事故の重大性、過去にもこうした事故のあった可能性や、アメリカ軍や防衛施設庁による地元自治体への情報のコントロールの問題など浮かび上がってきた。

●六八キロリットル（ドラム缶三四〇本分）ものジェット燃料はどうして漏れ出したのか、その後の処理はどうなっているのか。地元自治体へは、いつどのようにならされたのか。なぜ遅れたのか。などなど、横田基地の抱える問題点を提起する記者会見となった。その内容を短くまとめた。

●公開された資料によれば一九九三年十月二日から、横田基地ではビバリー・モーニング演習が行われていた。有事の備え、基地内の駐機場で飛来する航空機に燃料を給油する訓練だ。今回は、いつもは航空機の駐機の全く無い基地東側で行われた。老朽化した給油設備のため制御ポンプの底からジェット燃料が漏れて出していた。米軍は最初は無視をしたが、漏洩した燃料の量が判明するにつれ、ことの重大さに気が付いて行く。公開された米軍側の資料による経過は、次頁の誌を見てほしい。

●この時期、朝鮮半島情勢は緊迫していた、北の開発した「ノドン一号」ミサイルが日

本まで届くのか、と言った記事が新聞をにぎわしていた。横田基地が朝鮮有事の想定でこうした基地施設の訓練をしているもおかしくない時期だった。事故はこうした国際情勢の中で起こった。

●大量の燃料漏れは米軍内部でも重大な関心を呼んだ。発表された内部通信でも「諸君は今スポットライトを浴びている、空軍の参謀長以下軍の上層部は、一万八千ガロンの油漏れの件で、横田が関心の的になっている」と書いている。

●米軍は、ことの重大さに大いにあわてた、十一月九日には要請された調査費用三〇万ドルが手続きを待たずに十二日には送金される一方技術者が急派されるなど、比較的素早い対応がなされ、調査が始まった。

米軍横田基地燃料もれ

横田基地

燃料漏れ68キロリットル?

不安訴える周辺自治体

遅れた連絡

●では燃料漏れ汚染の影響を、最も受ける地元自治体への連絡はどうだったのだろうか。例えば昭島市などは市民の上水道の百パーセントを地下水に頼っている。過去にもこうした燃料漏れによって、基地近くの家庭の井戸が全滅したこともあった。

●しかしながら、今回の事件に関しては米軍並びに防衛施設庁の地元自治体への連絡はお粗末極まるものだった。事件発生から約二週間たった十一月四日、地元自治体は東京都庁での新聞記者発表によってやっとこの事態を知ることになった。

●周辺自治体は、通報の遅れに対する事実経過の説明や抗議、現場確認などの申し入れを行ったが、全く回答はなかった。なんと、六月に一枚の簡単な報告書がファックスで送られてくるまで、地元自治体は直接何も知らされてはいないのだ。

●しかしこのことも、公開された一日の文書では、「地元の市長たちにはまだ知らせないだろう」とか、二日に来日したアピン国防長官の離日までは記者発表をしないと、情報のコントロールがはっきりと示されている。これが、米軍と自治体との「関係」の実態なのだ。

●今回の汚染は場所も原因も特定されているので、それなりに対策をたてやすい。しかし、今回の米軍の報告で判明した重大な点は、過去にあった相当に大規模な汚染についてだ。これはたまたま明らかになったことであって、ほとんど情報がない。さらに広範囲にわたる基地内の土壌や地下水の系統的な調査と対策が必要だ。内部文書によれば米軍は今回の汚染に関しては改善策を実施しようとしているが、過去の汚染の改善には費用を出さないとしている。市民、自治体、国の協議が必要だ。

ジェット燃料漏れ事故経過

米軍横田基地側の動き (公開された資料から)

- 10月21日 戦時演習「ビバリー・モーニング93-10」始まる。
- 22日 燃料2248ガロン行方不明に気付くが、対応策は取らなかった。
- 24日 1万963ガロン不明。調査始まる。
- 25日 問題の第2号ポンプ室の使用中止。
- 26日 圧力漏れテスト。合計1万7871ガロンの燃料漏れを確認。
- 27日 太平洋空軍司令部（ハワイ）に燃料漏れを報告。
- 29日 横田防衛施設事務所に燃料検査の食い違いを口頭で知らせる。
- 30日 横田防衛施設事務所に燃料漏れが確認されたことを伝える（口頭）。東京防衛施設局はより正確な情報を望んだ。
- 11月1日 基地内の井戸の試料採取を開始。「防衛施設事務所は市長たちにまだ情報を知らせないだろう」と現状報告会。「記者発表は11月3日11時以前には行わない」。
- 2日 国防長官の訪問が完了するまで、防衛施設事務所への連絡は一時的に中止されている。
- 3日 基地内の井戸の試料の分析結果では燃料は検出されず。
- 5日 防衛施設局の質問に回答。記者発表。

この動きを 基地返還のチャンスに!

●上瀬谷基地はいろいろなウドの会の人々:(ウ)
●田巻一彦(編集部):(キ)

(キ)最近の上瀬谷基地の話をしよう。また、アンテナが消えたね。

(ウ)そう、六月の基地監視で確認した。基地の南の端にあった「612ルーブアンテナ」が撤去されていた。一九八七年に基地内の別の場所から移された比較的新しいアンテナで、「敵国」の電波傍受の時に電波の発信源を突き止める、「方向探知」のためのアンテナだといわれていた。

(キ)これで撤去されたアンテナはいくつになったのかな?

(ウ)九一年から今までで大型アンテナ4種類12基が撤去された。これで残る大型アンテナは2種類2基になる。九一年末に撤去された「ロンビック・アンテナ」は、合計36本の支柱を林立させた、上瀬谷のシンボリック存在だった。これがなくなると上瀬谷の風景はいつべんに…

(キ)殺風景になった(笑)。

(ウ)そう、基地監視も「みるべきものがなくなった」(笑)。最初のうちは、当時新聞も報道していたように、「老朽化したアンテナの建替え」では、ってんで、目を光らせていたんだけど、一向に新しい動きは見えない。

基地「縮小」なのか?

(キ)ここでおさらいをする。海上の艦船や航空機からの通信を横須賀の司令部に中継する受信基地だ。10キロほど南にあって送信を受け持っている深谷通信基地とペアになっている。同時に上瀬谷には、相手国の電波を傍受する部隊、P3C対潜哨戒機部隊を指揮する司令部、インド洋・太平洋の軍艦の位置や動きを集め、分析する部隊がいて、第七艦隊の「中枢神経」といわれてきた。アンテナ

撤去の動きをどうみる?

(ウ)アンテナが撤去されてもおかしくない理由は、二つあるだろう。一つは、冷戦が終わった、ということ。撤去されたアンテナのほとんどは、ソ連国内や沿岸の弱い電波を傍受するためのものだったと考えられている。ソ連の解体でその必要は完全になくなったとは言えないが重要度はうんと低くなった。

(キ)去年十二月と一緒に基地を歩いた、評論家のNさんは「撤去されたアンテナは全部傍受用のものだ。上瀬谷では電波傍受はもうやってないんじゃないか」とほとんど断定してたね。それにしても、方向探知用アンテナが残っているのはふしぎだ、とも。

(ウ)その「ルーブアンテナ」も今回撤去された、ということではないかな。アンテナ撤去のもう一つの理由は、軍事通信の主流が衛

星通信になって、あんな大袈裟なアンテナはいらなくなったという技術的な理由だ。

(キ)だとすると、これから上瀬谷に新しいアンテナが立つ可能性は非常にうすいね。

米軍の「リストラ」

(ウ)それはそうなんだけど、忘れてはならないのは、さっき(キ)さんがおさらいしてくれた「中枢機能」としての上瀬谷の役割は解消されたわけではなくて、時代にあった形に「近代化」されてどこかに「統合」されたりしているということだ。つまり今はやりの「リストラ」。

(キ)九月十七日の「スターズ・アンド・ストライプス」の記事を見てもそれがわかる。要約すると、

①NSGA(海軍保安グループ)が来年夏に沖繩、横須賀などに分散移転する。(NSGAは電波傍受部隊と思われる)

②JICPADEET(太平洋統合情報センター上瀬谷分遣隊)が来年十月を目標に横田に移転する。

③通信施設の管理責任はこの十月に横須賀から厚木基地にうつる。

④この結果、約二九〇人の要員が上瀬谷から転出する。

この四年あまりの目に見えた動きと重ね合わせると納得がいくね。

「返還」を地域の声に

(ウ)だから全体を見れば、そんなに喜べる話ではない。例えば横田は拡大だ。でも、上瀬谷については、米軍に「もういらなくなったんだらう。はやく返還を」と要求しない手はない。そもそも二〇〇万平方メートル以上の土地を占拠したうえ、その三倍以上の面積に「電波障害制限地域」を設けて建てたものの高さなどを制限してきた理由はなくなっただけだから。

(キ)すでに県議会や市議会でも、その話題が出ています。面白いのは口火を切っているのがどちらかというと保守系の議員であるということだ。「返せ」とは言わないけどね。

「帰ってくる可能性はあるのか」と。でも十年前だったから考えられない話だよ。

(ウ)保守系の人たちは、いざ「返還」という話になったら、跡地利用やなんかで「私の出番」と思っているだろうから動きがはやいのかもね。でも、そんなうがった見方をすれば、より、「返せ」という声を方々から上げていって地域の声にしていくことのほうが大事だと思ふ。

(キ)保守であれ革新であれこの色分け旧いのか(笑)——基地が町づくりの障害になっているというのは共通の認識だ。「基地返還」を大きな声にしていくために何ができるだろう。

(ウ)まず、事実をきちんと伝えること。これがなかなかできない(笑)。パンフレットを作ろう、っていったのだけれだけ(笑)。(キ)早く作ろうね(しみじみ)。

(ウ)それはそうと、海軍道路ぞいの私たちが勝手に「平和広場」って呼んでる草っぱらの入り口の看板見た?

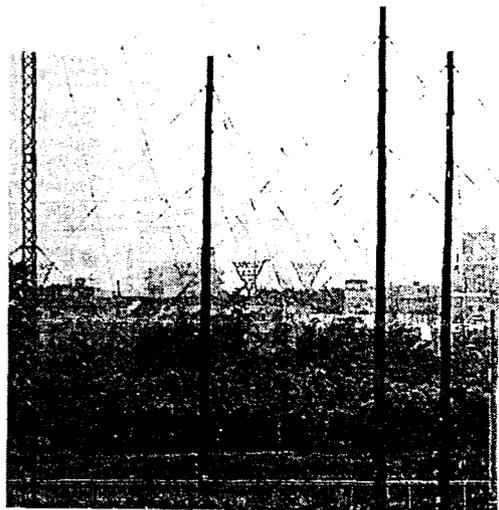
(キ)見た見た。

(ウ)あそこは前から市民が割りと自由に入り出して野球をやったりしていた場所だったんだけど建て前としては「立ち入り禁止」でそういう看板が立っていた。それが…

(キ)「日没から日の出まで立ち入り禁止」に代わったね。おまけにいつのまにか仮設トイレまでできて。

(ウ)米軍も気にしてるんだ。「返せ」と言われないように、「どうぞお使いください」なんていつて。

(キ)でも、返還しないかぎりには、いつでも米軍の勝手に「全面立ち入り禁止」に戻せるんだよね。



91年に撤去されたロンビックアンテナの一部(「神奈川新聞」より)

原子力艦 入港情報

(66)

94年9月20日～10月15日

S級=原子力潜水艦ステーション級
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆9月20日 14:14 原潜ソルトレイクシティ(L級)横須賀に入港。
- ◆9月22日 10:15 原潜ヒューストン(L級)横須賀に入港。
- ◇9月26日 10:00 原潜ヒューストン(L級)横須賀を出港。
- ◇9月30日 13:57 原潜ジェファーソンシティ(L級)横須賀を出港。
- ◇10月3日 13:00 原潜サンフランシスコ(L級)横須賀を出港。
- ◇同日 10:02 原潜ソルトレイクシティ(L級)横須賀を出港。
- ◆10月4日 08:09 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチに入港。
- ◇同日 08:20 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチを出港。
- ◆10月5日 08:19 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチに入港。
- ◇同日 08:30 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチを出港。
- ◆同日 14:27 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)佐世保に入港。
- ◇10月6日 16:10 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)佐世保を出港。
- ◆10月7日 10:12 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチに入港。
- ◇同日 10:37 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチを出港。
- ◆10月8日 20:11 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチに入港。
- ◇同日 21:35 原潜ジェファーソンシティ(L級)ホワイトビーチを出港。
- ◆10月9日 09:34 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)ホワイトビーチに入港。
- ◇10月10日 09:15 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)ホワイトビーチを出港。
- ◆10月11日 16:00 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)ホワイトビーチに入港。
- ◇10月14日 08:00 原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)ホワイトビーチを出港。

●1994年1月1日から10月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	27回(うち原潜22回)
佐世保	13回(うち原潜12回)
ホワイトビーチ	13回(うち原潜11回)
(沖縄・勝連町)	
合計	53回(うち原潜45回)

【訂正】
前号に誤りがありましたので訂正します。
(1) 次の2つのデータを削除します。
・9月2日原潜サンフランシスコ佐世保入港。
・9月10日原潜サンフランシスコ佐世保出港。
(2) したがって、寄港数の合計は
・佐世保 12回(うち原潜12回)
・合計 44回(うち原潜39回)

になります。

Bさん、感謝しています。
しかし、このリストはアルファベット順の国名と加盟年月日しかわかりません。「お手紙を出したいので住所か電話番号を教えてください」とお願いしたら、そういう一覧表は無いというのです。またまたここで外務省にバックです。外務省には地域課があって担当の地域ならば把握しているのだそうです。仕方なく、加盟国リストと、公館リストを照合し、国交のない国連加盟国を洗いだししました。しかし、大体どの地域の国か、わかるところはいいのですが、それすら浅学の私た



ちにはわからない国がありました。青柳さんの新しい英語の辞書が役立ちました。例えばアンドラを引くと「フランスとスペインの間にある」というのでヨーロッパです。外務省の地域課に「ヨーロッパV/Aアフリカ一課V/Aアフリカ二課V等と電話をかけまくり、回してもらったり、戻してもらったり、それでもわからない国は、「首都に送れば着くのでは?」とアドバイス(?)を頂いて送ったのですが、無事に届くよう折るのみです。

教科書ってスゴイ!

ところが、不思議なことが生じました。国連事務局から頂いた一八五国に含まれない国が、在日公館リストにあるのです。キリバスとか、トンガなど。すっかり混乱してしまいました。そして最終的にたどり着いたのが、高校生の息子が使っている社会科学教科書「新詳高等学校社会科地図」(93年版)でした。世界の国の首都・人口…の一覧表でした。地域別になつていて、首都もわかるし、教科書つ

(16ページ上段へ)

やりました!

全国連加盟国(185)にNPTアンケート



丸山マサ子

(95年を核のない世界への転換点に!運動)

「学校の教科書の類がこんなに役立つものとは!」。今回の作業を通じての実感です。「国連加盟国のすべてにNPTの延長問題についてアンケートを行う」。四月のブレインストーミングの中から出された活動計画の一つです。パンフ作りチームの仕事が一段落したところでしたので、面白そうだと参加しました。チームは梅林宏道さん、青柳絢子さん、そして私の三人です。

アンケート内容については「95年運動」の会議の中で十分論議され、NPTが核兵器保有国の優遇条約であり、これを無条件・無期限延長させてはならないという立場でつくられたと思います。

具体的には、NPT延長問題の再検討会議(95年)を前にして、不平等性をつき核保有国へ全面核実験禁止条約を迫る国際世論を創りたい。核兵器は国際法上も許されない。核兵器の廃絶は人類共通の願い。この三点を柱にしたアンケートです。

内容検討も終り、いざ発送を考える段になって、二つの壁におつかりました。一つはお金です。各国外務省宛てに送るには、少々お金がかかり過ぎます。そこで日本に設けられた大使館あてに送ることにしました。一国80円で届けることができるわけです。

第二の壁は、国連加盟国全てとその届け先でした。朝日年鑑でも見ればと簡単に考えていたのですが、一八五加盟国と言われているのですが、どうもそんなにはありません。いつもの手で朝日新聞社の広報室に電話をして教えていただきました。簡単なことで、外務省に尋ねればいいのです。そこで更に外務省には儀典官室なるものがあり、そこから「在日外国公館リスト」なるものが発行されている旨を聞き、切手一九〇円を同封の上リストを送付していただいたのです。

無事に届きますように

さあ、これで準備は万端と思いきや、リストに記載されている国が一五四国しかないのです。領事館や他国の大使館による兼轄、更に、本国の外務省宛てのものも含めてです。のこりの31国の宛先どころか、国名も不明です。私たちにも聞き覚えのある国が沢山リストに乗っていないのです。朝鮮民主主義人民共和国、アルメニア、ベラルーシ…。

尋ねましたが、外務省では国連加盟国リストは無いというのです。そこで、国連事務局にうかがうことにしました。国連広報センターの電話番号を教えていただき、更に資料センターにたどり着きお願ひしました。一八五国のリストをファックスで送って下さったM

会計報告

(94.8.13 ~94.10.21)

[収入]

○前月からの繰越	52,843
○今月の収入	297,079
会費収入	129,000
維持団体	10,000
維持個人	78,000
参加団体	0
参加個人	6,000
通信会員	35,000
カンパ収入	166,060
預金利子	19
資料収入*	2,000

[支出]

●今月の支出	328,261
事務所代(9,10月)	70,000
水道光熱費	16,460
電話・FAX費	24,570
郵送費	125,950
文具、備品	2,360
印刷・コピー代	86,070
行動費**	0
郵便振替等手数料	1,940
雑費	911

●次月への繰越 21,661

* 平和資料協同組合(準)の資料収入は、別会計とします。

** 行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみが、この欄に計上されます。

会費納入とカンパのお願い

会計報告にありますように、キャッチピースの財政が究極のピンチに陥っています。

次号、次々号、…と継続して発行出来ますよう、読者の皆様には、是非々々ご協力いただきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)

No. 25 (通巻104号)

発行●月刊「キャッチピース」刊行委員会
発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

☎●045(563)5101

FAX●045(563)9907

郵便振替●00160-7-136148 キャッチピース

発行人●梅林宏道

編集長●田巻一彦(今号は山中悦子が代行)

製作責任者●山中悦子

頒布責任者●梅林宏道

定価●100円(通信会員年間3000円)

(15ページから)
てスゴイ!なんて、感心してしまいました。国連事務局からのリストで92年加盟の国まではちゃんと入っていたのです。さすが、93年加盟のエリトリアやチェコ、スロバキヤ、アンドラ等は無理ですけど、でもきつと94年版にはきっちり入っているのですね。
結局最後に私たちは、この高等社会科地図の一覧表で整理したのです。アンケートの回答が戻ってきたら、整理するのもこの一覧表になるでしょう。
熟年の女二人が二日間ばかり、振り回された作業でしたが、動いている「歴史」を実感したように思います。国が消え、そして生まれている。そんな気持ちです。

編集室から

●大江健三郎氏のノーベル賞受賞。同じ日本人として誇らしい、と受け取る思いは、やはりマズイ感情なのだろうか。どう思われますか。…あつまじに決めてしまったのだ。(ま)
●事務所への坂道のお茶の木に白い可愛い花がいっぱい咲いた。秋深まれり。がんばるしかないか…。(や)



お知らせ

脱車備ネットワーク
キャッチピース

「第4回全国会議」を開催します

日時: 11月19日(土)~20日(日)

場所: 名古屋「名古屋働く人の家」

名古屋市熱田区伝馬2-28-14

☎&FAX: 052-682-5204

名古屋駅から

・タクシー: 約2,000円

・地下鉄: 名城線「伝馬町」徒歩7分

・名鉄: 常滑線「豊田本町」徒歩10分

*

一年に一度、全国のメンバーが一同に会する機会です。是非ご参加ください。